



地区社協ってどんな組織？



1. 組織の目的

『市民みんなが、住み慣れた地域で、安心して暮らせるように』

多くの人々は、高齢になっても、また、心身に障害を持ったとしても、住み慣れた地域で家族や友人に支えられ、生きがいをもって暮らしていきたいと願っています。

これまで生活してきた親しみのある生活の場で、誰もが安心して暮らしていくことのできる地域社会をつくっていくためには、公的な福祉サービスは勿論のこと、地域の中での住民同士の『助け合い、支え合い』が必要となってきます。

地区社協活動は、地域住民が主役となり、福祉の視点を持った地域づくりを進めるなかで「地域の福祉力」を高め、安心して暮らし続けることのできる地域を目指すものです。

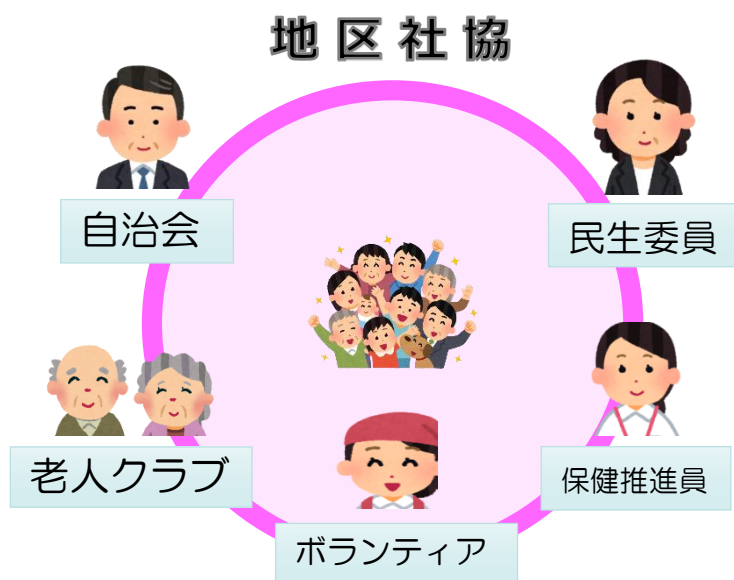
2. 「地区社協」って？

住民自身が自分たちで生活する地区の困りごと（福祉課題）やニーズを主体的に捉え、問題の解決に向けて住民一人ひとりが自発的に地域ぐるみで取り組む活動組織です。「①地域の情報を知る、まなぶ ②住民の困りごとをつなぐ ③地域の課題を話し合う ④地域の課題を解決する」を基本方針として地域福祉活動に取り組みます。

「知る・学ぶ」
「つなぐ」
「話し合う」
「解決する」



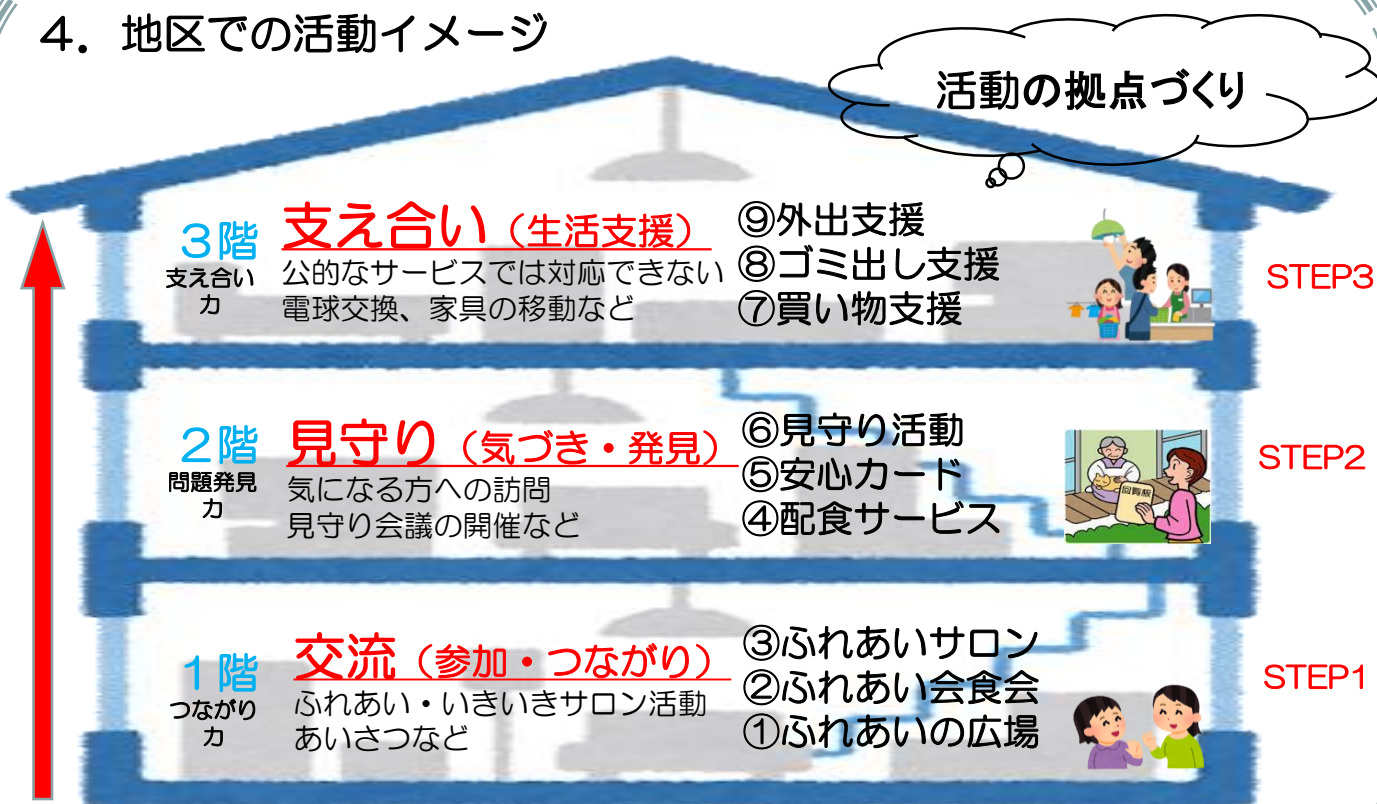
3. どんな人が中心になって活動するの？



地域には、自治会やボランティアの会、民生委員、老人クラブなど色々な目的をもった組織があります。地区社協活動の推進は、このような地域に既存する組織を基盤に、互いが協力し合い地域ぐるみで進められるものです。専門職や商店などの事業者も参加し、支え合いの輪を広げましょう。



4. 地区での活動イメージ



「交流・見守り・支え合い」活動の3段階

5. 地区社協の財源は？

地域活動を進めていくためには、財源を確保することが必要です。地区社協では、様々な工夫を凝らしながら、活動費づくりに取り組んでいます。

＜主な財源＞ 地区社協の財源としては次のようなものがあげられます。

①各戸からの会費

②市社協からの助成金

(1) 地区社協活動助成金 ⇒ 一般会費納入額の7割を交付

(2) ふれあい広場助成金 ⇒ 人口割にて交付

(3) ふれあい会食会助成金 ⇒ 人口割+実績額にて交付

(4) 地区社協研修助成金 ⇒ 上限10万円を交付

③その他の財源 ⇒ 地区の規模や活動内容により異なります。

6. 地区社協活動の紹介

～ふれあい・交流～

◆交流の場づくり

- ・ふれあい広場
- ・ふれあい会食会
- ・ふれあい・いきいきサロン



ふれあい・交流の効果

『困った時はお互いさま。』でも、自分が助けを必要とした時、地域に『助けて』が伝えられますか？

人と人のふれあいは、互いのつながりを深め、“単なる顔見知り”から“お互いに声をかけあえる”関係へ深めてくれます。人のふれあいが地域のつながりを強め、周囲にある困りごと（生活上の福祉課題）を他人事ととらえるのではなく、「困った時はお互いさま」の気持ちで支え合える“まち”・“ひと”を育みます。このように、ふれあい・交流は“まち”づくり“ひと”（地域の信頼・人間関係）づくりのための大切な活動です。

～見守り活動～

◆自治会と民生委員の連携による見守り活動

- ・福祉マップづくり
- ・安心カード配布
- ・自治会、民生委員等の情報交換会
(日常的な見守り活動を連携して
行うための情報交換会)

日常生活でできる自然な見守り例

- ・新聞がたまっていないか
- ・カーテンが開いているか
- ・電気がついていないか
- ・家の中で怒鳴り声が聞こえないか



◆訪問を通じた見守り

- ・赤ちゃんお誕生お祝い訪問
- ・配食サービスでの声かけ
- ・地域福祉活動のお知らせ配布
- ・お便り訪問（高齢者の方へ誕生月にハガキを出す）

「もしも」の時に備え、
安心カード設置します！

* 見守り活動の効果 *

継続的に実施する目配り・気配りの活動である、見守り活動は、高齢者への虐待や孤独死を未然に防ぎ、誰もが安心して暮らせる地域づくりの土台となります。まさかの時（災害時など）にも、助け合い支え合いの強い力を発揮する“地域力”の源となる活動です。

～支え合い～

- ・外出支援
- ・ゴミ出し支援
- ・買い物支援



～伝える～

- ・地区社協だよりの発行
- ・行事チラシの配布
- ・社協事業のチラシの配布

